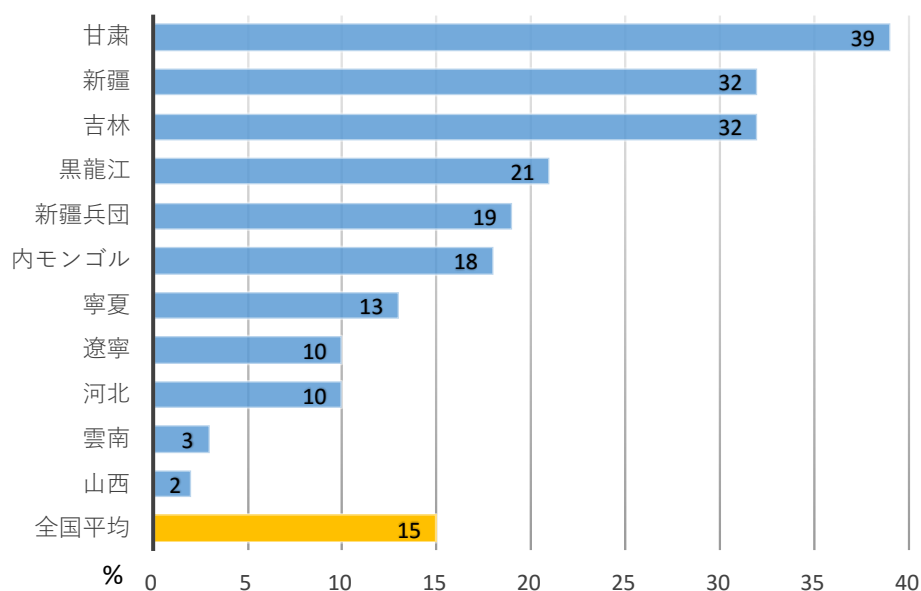


2015年の中国風力発電、余剰電力廃棄率15%でも能力増強続く

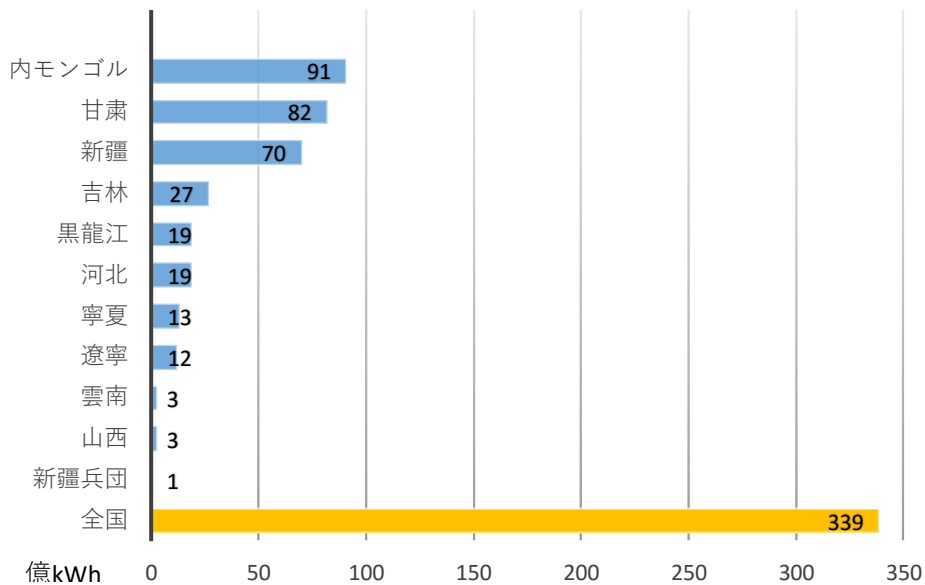
中国電力企業連合会の資料によると、2015年の風力発電電力量は1,851億kWh、風力発電設備容量は1.3億kWである。

なお、国家エネルギー局が公表した「2015年風力発電産業発展情況」によると、2015年の中国の風力発電の余剰電力廃棄率は全国平均15%（2014年は8%）で、最も高い甘粛省では39%にも達している（甘粛省は太陽光発電の余剰電力廃棄率も31%と高い）。その他、吉林32%、新疆32%、黒龍江21%なども余剰電力廃棄率が高い。中国風力専門委員会によると、同年の風力発電の電力ロス（余剰電力）は339億kWhである。



（出所）国家エネルギー局「2015年風力発電産業発展情況」

図1 風力発電の地域別余剰電力廃棄率（2015年）



(出所) 国家エネルギー局「2015年風力発電産業発展情況」

図2 風力発電の地域別余剰電力廃棄量 (2015年)

ところが、地方では、現在も風力発電の能力増強が続き、風力発電分野への投資が拡大している。このような状況を招いた原因として、以下の要因が挙げられる。

1. 地方政府による火力発電稼働率維持

中国経済の成長鈍化に伴い、電力需要が低迷しているが、地方政府は火力発電能力を増強し、火力発電の稼働率を維持する必要に迫られている。火力発電所は、風力などの再生可能エネルギーに比べて規模が大きく、政府の補助金も必要としないため、地方政府にとっては重要な税収源である。また、多くの労働者を抱え、雇用面でも地方の経済や社会を支えている。

このため、2015年、雲南省は国が認可した火力発電企業とのバランスをとるべく、風力発電企業に対し、収益の60%（低稼働期の売電価格を基準に算出）を火力発電企業への補助金として支出するよう指示した。また、同年、新疆では、長距離送電を行わない風力発電企業の運転停止を通達した。

2. 電力グリッドの安定

中国では、火力、特に石炭火力発電の割合が高く、経済的要因により、調整用電源（ガス、揚水式発電、石油火力など）の発電容量が少ない。このため、風力などの再生可能エネルギー発電は不安定で、電力グリッドの安定には風力発電による電力供給を制限せざるを得ない状況にある。

3. 重複建設、能力過剰問題

地方政府は景気てこ入れのため、火力、風力発電所の新規建設を次々と認可したため、重複建設などの問題が起こり、能力過剰を招いた。

4. 「再生可能エネルギー法」

「中国再生可能エネルギー法」（2006年施行）では、電力企業は自社電力グリッドの範囲内の再生可能エネルギー発電電力を全量買い取るよう定めているが、電力企業は電力供給の安定などを理由に風力発電の全量買い取りには抵抗している。

2016年3月17日、国家エネルギー局は2015年に風力発電の余剰電力廃棄が深刻だった地域に対して、2016年は風力発電の新規建設を認可しないと通達した。さらに、2016年3月28日、国家発展改革委員会は「再生可能エネルギー発電の全量買い取りに関する管理方法」を公布し、今後は計画内の再生可能エネルギー発電電力を優先的に買い取り、計画外の発電電力は市場で売買するよう通達した。

ただ、現況の中国経済、火力発電の新規稼働状況から判断すると、中国の風力発電が抱える課題解決には時間を要すると思われる。

(エイジウム研究所 主任研究員 川端利香)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>